

平成21年4月30日

各位

上場会社名 朝日放送株式会社
 代表者 代表取締役社長 渡辺 克信
 (コード番号 9405)
 問合せ先責任者 経理局長 沖中 進
 (TEL 06-6458-5321)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月5日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	81,000	△1,000	△900	△900	△215.14
今回発表予想(B)	80,200	△170	△150	△2,500	△597.62
増減額(B-A)	△800	830	750	△1,600	
増減率(%)	△1.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	83,352	3,227	3,666	1,574	376.43

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	68,000	△2,000	△2,000	△1,300	△310.76
今回発表予想(B)	67,500	△1,150	△1,200	△2,800	△669.33
増減額(B-A)	△500	850	800	△1,500	
増減率(%)	△0.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	73,032	1,852	2,106	898	214.86

修正の理由

内外の経済環境の急速な悪化は、当社グループが主力事業を展開する放送業界にも深刻な影響を与え、テレビ・ラジオに対するスポット広告の出稿量は前年同期を大幅に下回る厳しい状況となりました。広告収入の落ち込みにより、売上高は前回予想を下回ったものの、減収に伴う代理店手数料の減少や、番組費、労務費など費用の圧縮に努めた結果、営業損失、経常損失については、前回予想に対し改善する見通しとなりました。

一方、投資有価証券評価損を特別損失として計上することにより、当期純損失は前回予想より悪化する見通しとなりました。なお、この投資有価証券評価損につきましては、平成21年1月7日公表の「投資有価証券評価損計上に関するお知らせ」にありますように、平成21年3月期第3四半期末で連結1,095百万円、個別1,086百万円であったものが、平成21年3月期の期末時点では連結1,454百万円、個別1,427百万円となる予定です。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上